

元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール

報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 1回生 品川 和毅



今回、台湾に行ってきたたくさんの人に出会い、この中でたくさん感謝を受けました。日本に帰ってきてからも興奮がおさまりません。今から私は、台湾の人との出会いから学んだ一部を書きます。

初日、台風の影響により8時間関西空港で待ち続けようやく日本を旅たちました。台湾のホテルについた頃には日も暮れ夜遅くでしたが、台湾の学生さんたちは盛大に出迎えてくれました。向こうの学生さんたちはとても友好的ですぐに仲良くなりました。

お互い言葉が通じない中で、やり取りをして伝わったときの感動は今も忘れられません。

台湾の町で感心したこともあります。それはドライブマナーです。人口も多く、人や車が右往左往しているなかクラクションもならず、人に道を譲り、他人を待つ姿勢です。京都ではこのような人は少数派ですね(笑)台湾人の国民性を垣間見れました。

また、ショッキングなこともありました。日本人2人と台湾人5人と観光地をまわり、昼食をとるときにあるレストランに入りました。しかし、最高学年のメンバー一人のみ私たちとレストランに入り、その他のメンバー(2、3年生)は屋台のものを食べにいきました。不思議に思い聞いてみると、「レストランは値段が高いから食べられない。僕は君たちがいるから今日は特別食べているが、普段はここには入らない。」とっていました。そのレストランで食べたものは150元(日本円で約600円)の台湾風ラーメンでした。そういわれ、レストラン内の客層をみると確かに観光客や大人ばかりでした。そのとき、何ともいえないショックを受け、自分たちの恵まれた生活、裕福さを再認識しました。



また、夜遅くまで私たちのために毎日夜更かしをしてくれました。4、5時までいろいろな話をしたり遊びました。睡眠時間までけずり私たちために尽くしてくれ、たくさんの感動をくれた学生との別れは非常に良かったです。JAPAN DAY のとき、時間の経過はとても速かったです。今でも、向こうの学生さんたちと連絡を取り合っています。また、必ず台湾に遊びにくると言って日本にかえってきた約束を果たせる日が待ち遠しいです。



最後に提案があります。私はぜひ彼らに恩返しをしたいです。単刀直入にいうと日本での受け入れがしたいです。台湾の学生の金銭面、受け入れをするに至るまでには、たくさんの協力が必要なことは承知です。今回の研修が一期一会の出会いといえ、それまでですが、今回1年生で行かせていただいてまだチャンスがあるので、この場をお借りして、お願いいたします。毎年、順番に交換留学生として両校が受け入れる summer camp を作りたいです。

